

乳幼児期の手指衛生への取り組み

～「手洗って楽しい！」から「自分でできた！」へ～



八尾徳洲会総合病院 感染制御部
山下 あすか

当院の保育室で行った手洗い教室から考える、発達に合わせた手指衛生

2歳児

遊び・まねっこ・見える工夫で
「やってみたい」を引き出す

5歳児

考える・歌う・確認することで
「自分でできる」につなげる



今日お伝えしたいこと

「年齢に合わせた伝え方」と「保育内で続ける工夫」

① まずは「好き！」から

正しい手順ではなく

気持ちを育てる



② 年齢で方法を変える

年齢の特徴を生かす

2歳児: 感覚・まねっこ・短い言葉
5歳児: 考える・理解する 自分で確認する

③ 日常につなげる

いつもの生活の中で

繰り返す



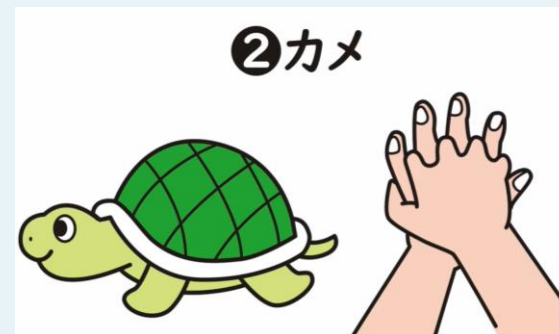
「教える」よりも、「できた！」を積み重ねる視点

2歳児:手洗いを「遊び」にする

「ピカピカ」を合言葉に

やったこと

- ・汚れた人形を見せて「おてて、ピカピカにしよう！」
- ・手洗いは3つのポーズに絞る
- ・咳エチケット「おててバリア」
- ・最後は「ピカピカハイタッチ」



→ 正しさを細かく説明するより、**まねしやすい動き**と**楽しい体験**を中心に。

環境の工夫

「できたよ！シール」を設置。 → 子どもの達成感 + 保護者への見える化に。

先生方へのポイント

「上手に洗おう」よりも「ピカピカになったね！」「一緒にやってみよう！」と、できたことを認める声かけ。

5歳児:手洗いを「自分でできる」に

やったこと

関心

考える

学ぶ

歌う

確認

→「なぜ必要？」まで考えることで、自分から手洗いする**きっかけをつくる**。

先生方へのポイント

子ども自身に「どうして？」と問いかける。

答えをすぐ教えず、友だちの意見も聞きながら、**自分で気づく時間をつくる**。

2歳児と5歳児、共通して大切だったこと



① 楽しい

歌・遊び・ごっこ遊びなど、
「やらされる手洗い」にしない。



② 見える

できたよ！シール、ポーズ、歌
ブラックライトなど、**子どもが**
実感できる工夫。



③ くり返す

教室だけで終わらず、
保育室内での生活の中で**何度**
も思い出せる環境へ。

「楽しい → やってみる → できた → またやる」の循環をつくる

5歳児:教室の前後で見られた変化

8名の実施者について、介入前後を確認(n=320)

手洗い前の流水

89→97%

流水を使う割合

石鹸の使用

93.8→100%

石鹸を使う割合

泡の洗い残し

6.9→0.6%

残泡率

手洗い時間

18.4→19.8秒

平均時間

手洗いの「行動」や「洗い方」に、教室後の変化がみられた。

特に、石鹸使用は100%、残泡率は0.6%まで減少。
「できたかどうか」を一緒に確認することが、行動の定着につながる可能性が示唆された。

子ども・家庭にも広がった「やってみよう」

教室の時間だけでなく、その後の生活にも

園児からの感想(n=8)

- ・ママに教えてあげる
- ・その歌を知っている
- ・家に帰ったら2回は絶対に手を洗う

→ 楽しい体験が、「誰かに伝えたい」
「家でもやってみたい」という気持ちにつながった。

保護者アンケート(n=8)

(教室後の家庭での手洗いについて)

「教室で聞いた内容を自宅でも実施しようとしています」「手洗いの回数が増えました」「カメさん、バイクと楽しく手洗いをしています」

→ 保育内の取り組みを、家庭にも共有できるとさらに続けやすい。

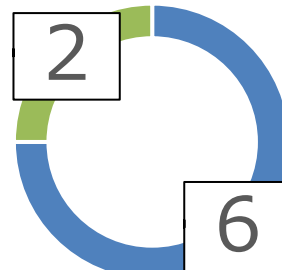
手洗い教室について



■ 楽しかった



家での手洗いについて



■ 変化あり ■ 変化なし



保育者の声も、次の教室づくりに活かす

アンケートを「評価」だけでなく、現場との対話に

保育施設と一緒に

感染対策側から一方的に伝えるのではなく、

園の生活リズム・子どもの発達・先生方の工夫

を組み合わせ、無理なく続く手洗い(感染対策)へ。



てあらいマイスター Kids 証

エンジェル保育室のみなさん

みなさんは正しい手洗いの仕方を習得することができました。
よってここに、「てあらいマイスター Kids」の認定をいたします。

令和 8 年 9 月 3 日
キッズプロジェクト記念
農林水産省消費・安全局
食品安全政策課



明日から園でできそうな小さな工夫

大きなイベントより、「いつもの生活」に仕掛けを

声かけを固定する

「ピカピカにしよう」「できたね！」など、先生同士で共通の言葉を決める

目印をつくる

手洗い場にポーズやイラストを貼り、**子どもが自分で思い出せる**ようにする

できたことを見つける

「全部できた？」ではなく、「泡をしっかりとつけられたね」など**具体的に認める**

家庭につなげる

歌・ポーズ・園での取り組みを**保護者に伝え**、家でも同じ方法を使えるようにする



「続けられること」を一緒に考え実行することが、感染対策の土台に。

まとめ

乳幼児期の手指衛生は、「正しい手洗いを教える」だけではありません。

2歳児

まずは「楽しい・まねしたい」

5歳児

「考える・できる」を自信につなげる

保育内・家庭

「できた！」を日常の中でくり返す

子どもの発達に合わせて伝え方を変えながら、
先生方と一緒に「**手洗いが自然にできる環境**」をつくることが大切。

ご清聴ありがとうございました

